

大和川砂に渡せる板橋を

遠くおもへと月見草咲く

歌 意

大和川の砂州に渡してある板橋を思い出しなさい、というように月見草が咲いている。月見草を見ると、遠いふるさとをなつかしく思い出します。

掲出歌集 『青海波』明治45（1912）年1月
初出 「毎日新聞」明治44年7月27日



- ・所在地 大和川堤防に沿った浅香山緑道（堺区香ヶ丘町5丁）
JR阪和線浅香駅から約600m
南海高野線浅香山駅から約1000m
- ・建立 平成25年9月7日
大和川に与謝野晶子の歌碑をたてる会
- ・連絡先 大和川市民ネットワーク <http://ycn-2009.ciao.jp>

大和川がつけかえられた江戸時代半ばの宝永元（1704）年以後、堺は大和川とともに歩んできた。人々は川が運ぶ土砂とたたかい、河口に新田を拓き、港を改修して新地を繁栄させた。大和川は堺の水道水として利用され、貝や魚がたくさんとれた。

歌碑は、晶子の歌を、大和川再生のシンボルにしようと、大和川市民ネットワークが呼びかけ、370人の賛同募金で実現した。

大和川は年々美しくなり、水辺活動が広がっている。川を見下ろす緑道に立つ歌碑は、アユが泳ぐ川をイメージし、つつじまつりの季節は特に美しい。裏には往時の板橋の写真と共に、次の二首も紹介している。

沙^{すな}白^{しろ}き 新大和川 我が町に

さかひ^{おとめ}少女^{おとめ}の 淨^{きよ}かれと添^そふ

橋一つ 越え大阪に続くより

近き^{ちか}ころに 作れ^{つく}れ都^{みやこ}も